

日本より新たに発見されたカシヒメチャタテ (新称) 付, 屋内で見つかるチャタテムシ目録

田中 和夫*・高木 宏美*

Lachesilla quercus (Kolbe, 1880) Newly Found in Japan, with a List of Domicole Psocoptera from Japan
(Psocoptera : Lachesillidae)

Kazuo TANAKA and Hiromi TAKAGI

ヒメチャタテ科 Lachesillidae は九大昆虫・日本野生生研の日本昆虫目録 (1989) 及び富田・芳賀 (1991) によると, 日本からは只一種 *Lachesilla pedicularia* (Linné, 1758) ヒメチャタテしか記録されていない。ヒメチャタテは屋内でも屢々大発生することが知られているが, 屋内ではこの科の別の一種が数年前から往々発見されている。この種は複雑で然も甚だ特徴的な♂交尾器が *Lachesilla quercus* (Kolbe, 1880) に完全に一致するので, 本種と同定した。種小名の *quercus* から和名をカシヒメチャタテ (榎姫茶柱虫) として本稿で記録することにした。

Lachesilla quercus (Kolbe, 1880)

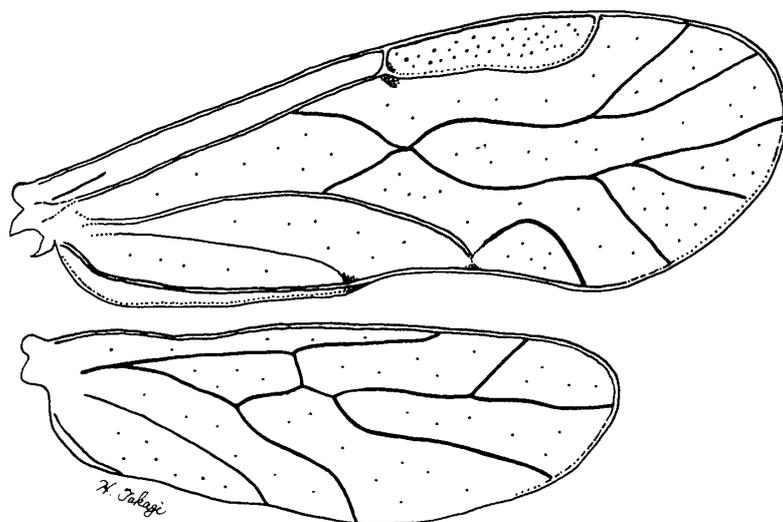
カシヒメチャタテ (新称) (図1-6)

Caecilius (*Pterodela*) *quercus* Kolbe, 1880.

Lachesilla quercus : Enderlein, 1919 ; Badonnel, 1943 ; Smithers, 1967 ; Günther, 1974.

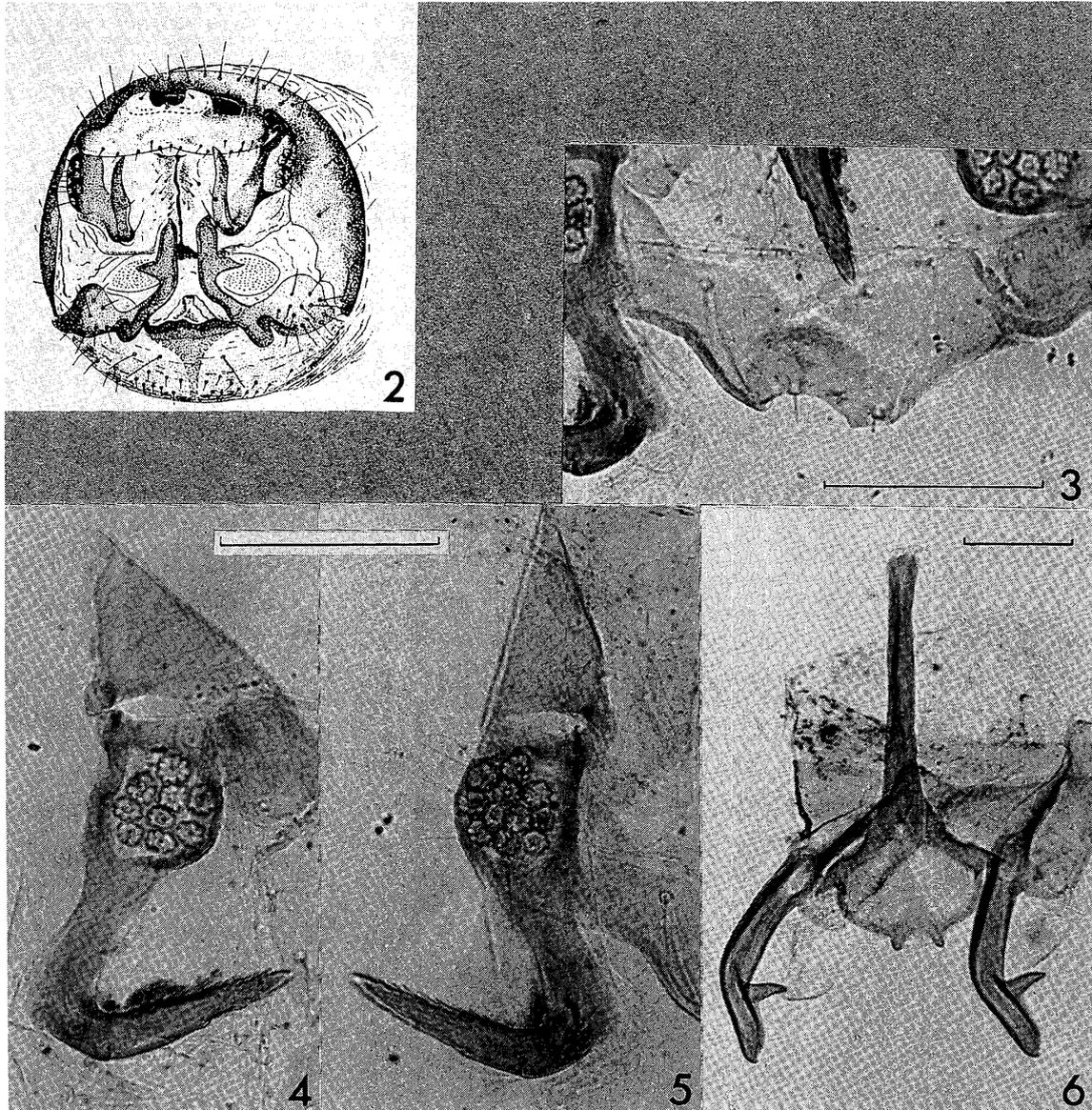
被検標本 : 1♂, 京都府, 1991年5月 ; 2♂, 栃木県, 1991年12月20日。

♂ : 前翅長2.1mm, 後翅長1.6mm (栃木県産の1個体)。触角は長く13節で第1, 2節は短く, 第3節が最も長い。翅は上記3♂とも完全な長翅形であったが, 短翅形もヨーロッパでは出るといふ。この科の特徴として, 翅脈に毛を欠き, 後小室は中脈と接していない。RsとMの接点は上記3♂では何れも短い距離で融合している。併し, 両脈



1, *Lachesilla quercus* カシヒメチャタテ ♂, wings

* 帝装化成字都宮本社研究部



Lachesilla quercus カシヒメチャタテ ♂

2, Apex of abdomen (Badonnel 1943) ; 3, Epiproct ; 4 & 5, Paraproct ; 6, Harpago and phallus.
(Scales indicate 0.1mm.)

は分離し横脈で連結されるもの、或いは一点で接するものなど変異があるという。後脚基節は先端にヤスリ状部を有する。跗節は2節、爪は亜端歯を具え、基部に細長い褥盤と一刺毛を有する。後脚の爪の長さ 32.5μ (栃木県産1個体)。腹部末端は濃色。♂交尾器はスライド標本として検鏡した栃木県産の1♂について記す。肛上板(epiproct)は短く、中央で急に狭まり、後縁は深く剔られ、両側は小片状となる。後縁の中央に1本、両側の片状部に各1本の刺毛を有する。肛側板(paraproct)の生毛板(trichobothrium plate)

の毛は左9本、右11本、その下方から各1本の上方に曲がった鉤状突起を生ずる。この突起の外側には2本の刺毛を具え、他側は多くの細長い微歯で被われる。把握器(harpago)は長く、中央で上方に屈曲し、先端近くまでほぼ同幅、先端部は丸いが、小さく尖った突起がある。先端部前に長軸とほぼ直角に出る大きく鋭い三角状の側歯を具える。陰茎体(phallus)の基部は細長い棒状、先端は幅広い板状で末端に1対の小突起を具える。

分布. 日本：本州(新記録), 中央アジア, ヨー

ロッパ, モロッコ。

近似種のヒメチャタテ *L. pedicularia* とは下記のように区別される。

1. 体色は一般により明るく, 腹背の濃色横帯はより不鮮明。♂交尾器: 第9—10背板及び肛上板に長い突起はない。肛側板には一對の長い突起がある。把握器は先端部前に大きな側歯を具える。…………… *L. quercus*
- 体色は一般により暗色, 腹背の濃色横帯はより鮮明。♂交尾器: 第9—10背板に一對の波曲した細長い突起がある。肛上板は1本の後下方に彎曲した突起を有する。肛側板には突起はない。把握器に垂端歯はなく, 先端は細く尖る。…………… *L. pedicularia*

日本では野外の生活は全く分かっていない。ヨーロッパでは Günther (1974) によると, 6月から10月まで特に樞類に普通で, 枯死或いは衰弱した葉の繁みに多く, これらに発生するいろいろな菌類を食している。卵は葉上に産附され, 一年に2世代, 卵態で越冬するという。

著者らのみたものは何れも屋内で得られたものである。1991年5月に京都で得られたものはフルーツゼリーに混入していたもの, 1991年12月の栃木県のもは食品会社で得られたもので, ここでは室温が22℃内外に保たれており, 壁などにコウジカビ類のカビが生えていて, かなり多数のチャタテムシの発生が見られた。

ヒメチャタテムシ類は, 当社の業務上の調査の過程でよく採集されるが, 調査は主として粘着トラップを用いてなされており, 粘着剤から軟弱なチャタテムシを完全な形ではがし, スライド標本として検鏡することは, 通常のルーティンワークの過程では時間的に困難で, 同定は科までの段階で処理されている。このヒメチャタテ科とされたものは, 恐らく, ヒメチャタテと今回記録したカシヒメチャタテとが混在しているものと思われる。又, 調査の方法や時期が一定でないので, 統計的な処理はできないが, 当社の過去5ヶ年間の業務上の調査の結果を通覧してみると, このヒメチャタテ科は, 食品, 金属, 金属容器, フィルム, プラスチック容器, 製紙, 印刷の7業種22工場で

発見されている。最も多いのは食品業の12工場であった。4月から10月までは, 少なくとも何れかで1週当たり20匹以上が採集されており, 最も多かったのは栃木県下の食品工場の9月で, 1週間に189匹が捕獲された。11月は激減し, 3月と12月には稀に発見され, 1月と2月は全く採集されていない。寒期は暖房の影響も考えられるので, 活動期は4月—10月と推定される。

尚, 本種の分布は上記の様で東アジアでは採集されていない。アジアの温帯に日本からヨーロッパまで連続的に分布しているものか, 或いは人為的に日本に運ばれたものかは分からないが, チャタテムシはアジアでは良く研究されているとは言えないグループであるから, 棲息していても発見記録されていないという可能性も大きいと考えられる。

屋内で発見される日本産チャタテムシ類

A LIST OF DOMICOLE PSOCOPTERA FROM JAPAN

I. PSOCOMORPHA

チャタテ亜目

(i) Ectopsocidae

クリイロチャタテ科

1. *Ectopsocopsis cryptomeriae* (Enderlein, 1907)

クリイロチャタテ

本州, 九州

(ii) Lachesillidae

ヒメチャタテ科

2. *Lachesilla pedicularia* (Linné, 1758)

ヒメチャタテ

汎世界, 北海道, 本州

3. *Lachesilla quercus* (Kolbe, 1880)

カシヒメチャタテ (新称)

本州 (新記録), 中央アジア, ヨーロッパ, モロッコ

(iii) Hemipsocidae

スカシチャタテ科

4. *Hemipsocus chloroticus* (Hagen, 1858)

スカシチャタテ

本州, 四国, 九州, 奄美; 台湾, 東南アジア

II. TROGIOMORPHA

- コチャタテ亜目
- (iv) Psyllipsocidae
セマガリチャタテ科
5. *Psyllipsocus sauteri* (Enderlein, 1906)
セマガリチャタテ
本州, 台湾
- (v) Trogiidae
コチャタテ科
6. *Cerobasis guestfalica* (Kolbe, 1880)
汎世界
7. *Lepinotus inquilinus* Heyden, 1850
汎世界
8. *Lepinotus reticulatus* Enderlein, 1905
ツヤコチャタテ
汎世界
9. *Trogium pulsatorium* (Linné, 1758)
コチャタテ
汎世界
- III. TROCTOMORPHA
コナチャタテ亜目
- (vi) Pachytroctidae
フトチャタテ科
10. *Tapinella africana* Badonnel, 1948
フトチャタテ
本州, アフリカ (コンゴ)
- (vii) Liposcelidae
コナチャタテ科
11. *Liposcelis bostrichophilus* Badonnel, 1931
ヒラタチャタテ
汎世界
12. *L. corrodens* (Heymons, 1909)
ウスグロチャタテ
= *subfuscus* Broadhead, 1947
本州, ヨーロッパ, チリ
13. *L. entomophilus* (Enderlein, 1907)
カツブシチャタテ
本州, 東アジア, ヨーロッパ, アフリカ, 南
米, ニュー・ヘブリデス
14. *L. kidderi* (Hagen, 1883)
ソーメンチャタテ

- = *simulans* Broadhead, 1950, Race A
本州, 中部ヨーロッパ, ケルゲレン
15. *L. simulans* Broadhead, 1950
ホンチャタテ
= *simulans* Broadhead, 1950, Race B
? = *divinatorius* (Müller, 1775)
汎世界

文 献

- Badonnel, A. 1943. Faune de France 42, Psocoptères. 194pp., Paris.
- * Enderlein, G. 1919. Collections Zoologiques du Baron Edm. Selys-Longchamps 3(2), Copeognatha, 55pp.
- 九大昆虫・野生生研センター編, 1989. 日本産昆虫総目録 I, 554pp.
- Günther, K. K. 1974. Tierwelt Deutschlands 61. Staubläuse, Psocoptera, 314pp.
- * Kolbe, H. J. 1880. Monographie der deutschen Psociden mit besonderer Berücksichtigung der Fauna Westfalens. Jber. Westfal. Prov.-Ver. Munster 8: 73-142.
- Smithers, C. N. 1967. A Catalog of the Psocoptera of the world. Austr. zool. 14(1): 1-145.
- 富田康弘・芳賀和夫. 1991. 日本産チャタテムシの目録と検索表. 菅平研報(12): 35-54.

Summary

Lachesilla quercus, hitherto known from Central Asia, Europe and Marocco, was found in Honshu, Japan. Three males were obtained indoors, 1 ♂ from Kyoto Prefecture, and 2 ♂♂ from Tochigi Prefecture. It is uncertain that they have been imported or distributed over the temperate region of Asia from Japan to Europe. [Kazuo TANAKA & Hiromi TAKAGI: TEISO KASEI Co. Ltd., Utsunomiya Main Office]

キーワード: チャタテムシ; 屋内; 日本新記録.
Keywords: Psocids; House; New to Japan.

*Indirect citation.